

冒険心が飛翔する“100人の戯空間”

ウイング フィールド

〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋2-1-27 周防町ウイングス6F

TEL(06)6211-8427 FAX(06)6211-6312

ウイングフィールド公式サイト URL <http://wing-f.main.jp/>

ウイングフィールド提携公演

旅劇

3/5(木) 7:30 作・演出 / 村角太洋 (THE ROB CARLTON)

6(金) 3:00
7:30 「なにわ ひさ石 本店」

7(土) 2:00 出演 / プロジェクト KUTO-10

6:00

8(日) 2:00 料金 / 前売 3,500 円 当日 3,800 円

前売学生 2,500 円 当日学生 2,800 円 (当日要学生証)

9(月) 6:30 「第22回 関西現代演劇俳優賞」授賞式

(6:00 開場) 主催 / 現代演技論研究会

ウイングカップ再演大博覧會

W博覧會

13(金) 7:00 作 / 黒井エミ 演出 / 水島川岳良

14(土) 2:00 「回想戯曲」

6:00

15(日) 2:00 出演 / 私見感

5:00

料金 / 前売 2,500 円 当日 3,000 円 他各種割引有

ウイングカップ再演大博覧會

W博覧會

作・演出 / 鈴木友隆

22(日) 3:00 「レイク横 (リーディング公演)」

出演 / ともに企画

※リーディング終了後トークイベントあり

料金 / 1,000 円 (前売・当日共)

高校生以下 無料 (要証明)

ウイングカップ再演大博覧會

W博覧會

27(金) 7:30 作・演出 / 中川真一

28(土) 11:30
3:30 「night way」

7:30 出演 / 遊劇舞台二月病

29(日) 12:00

4:00

料金 / 前売 2,800 円 当日 3,300 円

25 歳以下 2,200 円 (当日要証明書)

大竹野正典没後 10年記念公演のこと

後藤小寿枝

この10年、駆け抜けてきたような気がする。3回にわたった追悼公演、大竹野の台本集である劇集成I~IIIの出版とその記念公演を行い、気が付けば没後10年を迎えていた。10年ひと昔とはよく言ったものだ。10年もたてば少しは落ち着きそうなのである。

しかし元来落ち着きのない性格のせい、私はさらに先を求めた。せっかく皆で苦勞して出版した本である。もっと多くの人に読んでいただきたい。大竹野正典という人に会ってみたい。何かできないだろうか。そうだ、皆に上演してもらおうというのはどうだろう。

恐る恐る、知り合いから声をかけてみた。

「大竹野の台本を演ってもらえませんか？」

企画のタイトルは没後10年記念公演というのを思いついた。しかし、「記念」という言葉はふさわしいのだろうか。辞書を引いてみると記念とは、故人を思い出し心を新たにすること、とある。まさにこれじゃないか。タイトルはこれで決まった。あとは誰が演ってくれるかである。様々なツテが広がり、数え上げると27団体が名乗りを上げてくださった。

公演数は31回にも及ぶ。

こんな事を誰が想像しただろうか。

大竹野正典という人は大体において正直な人だ。すぐばれるような子供のような嘘はあっても、こと芝居において、嘘はつけない。そして、にこやかに見えて悪党だ。そもそもなぜ芝居をするのか。その問いかけに大竹野は「芝居をしてい

ないとヒトゴロシになってしまいそうだから。」と答えた。

大竹野が20歳ごろに書いた落書きのような文章を引用してみよう。

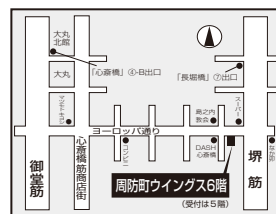
「ここに一つのコーヒークップがある。何の変哲もないコーヒークップ然としたコーヒークップである。しかし、このカップを右から眺めた時、その左側は見えない。真上から見た時、その底は見えない。そこにはぺろりと舌を出し、ニコニコ笑いながら人を殺すような不気味さを感じる」というものであった。

若い時の書きなぐりなので、誰かにインスパイアを受けて書いたものかもしれない。しかし、私はこの文章に大竹野という人の底の知れない悪意と幼子のような無邪気さを感じるのである。大竹野は、単純に台本を書きたくて書いたのではない。書かざるを得なくてかいたのだ。やらざるを得なくて芝居を演り続けていたのだ。そんな大竹野の台本は、10年過ぎた今でも人の心を揺さぶる何かを持っていたのだろう。

生前の大竹野を知らない若い方々も、たくさんこの企てに関わってくださった。

文字をとおして、大竹野に出会っていただけ。そんな私のささやかな願いが、少しづつかなえられていく。大阪を中心に細々と続けられていた芝居たちが、大阪を離れ、関西を離れ、遠い地に住む人々にまで届いてゆく。そんな夢を見る。台本たちよ、さらに羽ばたけ。誰かに愛され、踏みつけられ、現代を生き抜いて行け。

大竹野正典没後10年記念公演、愛称「はつじゅう」。この企画を支えてくださった皆様に心からの感謝を申し上げたい。(くじら企画代表)



次代を担う表現活動を、微力ながら支援します。

す おう まち
周防町ウイングス